

開催地名：石川県能美市	
開催日時	令和2年12月20日（日） 10：00～12：00
開催場所	能美市防災センター
語り部	草 貴子（宮城県仙台市）
参加者	各町会委員、一般市民 約40名
開催経緯	<p>当市では、各種防災啓発を試みているところであるが、地域によっては、まだ行政に頼りがちな面があり、特に「自助」「共助」の取り組みを促す防災意識の醸成や地域防災力の向上など、実体験に基づく生の声をいただくことは、多大な効果が期待できると考え、今回語り部講演を開催することとする。</p>
内容	<p>（１）はじめに</p> <p>私の所属する市名坂東町内会は、仙台市の泉区東部に平成20年に設立した、現在加入数186世帯の町内会で、働き盛りの40、50代の方や、単身赴任の家庭が多い中で、必然的に私達女性が立ち上がり、作り上げた町内会である。役員8名が全員女性であることも、設立2年目に建設した集会所の為に銀行にローンを組んだことも、仙台市では初めてのことだ。</p> <p>町内会の3つのスローガンの中に、防災、子育て支援、ふるさとづくりとあるが、中でも防災に特に力を注いだ。身の丈にあった町内会、オリジナリティーのある町内会、そして、街をつくるために中核となるものとして、人が集まる場所、人を集める場所がなくてはならないと考えた。銀行にローンを組んでまでも集会所建設にこだわったのは、そんな思いからである。普段の町内会活動においても、活動出来るのは主婦だけで、高齢者も少ない実情から、子ども会以外の組織はあえて作っていないので、町内会と自主防災組織、婦人防火クラブの性格を兼ね備えている組織と言える。</p> <p>（２）東日本大震災</p> <p>地域では、電気は2～3日、水道は3～4日、ガスは1カ月で復旧したので、各自が持ち寄った材料で子供達が調理するなど、ほのぼのとした時間も取れた。翌日から、折りたたみリヤカーで指定避難場所に支援物資の引き取りに行ったが、支援を受けたのは3月12日と13日の2日間だけで、その後は各家庭で対処していただいた。集会所に集まった子供たちは、私達が区役所で得た病院や給水車の情報等を、町内に広報するのに大活躍だった。学校も休みになっていたの、避難者の大学生と高校生が「何か出来ることを」と申し出てくれた際には、「寺子屋」という形で子供達の勉強の面倒を見てもらうことをお願いした。女子学生は小さい子の子守りをしたり、男子学生は公園で鬼ごっこをしたり、それぞれができることを一生懸命していたように思う。</p>

	<p>(3) 震災後の活動</p> <p>市名坂小学校区には1万人以上の人々が住んでおり、小学校を拠点とした町内会、連合町内会、市民センター、児童館、民生委員、青年団、PTA、婦人防火クラブ等の20の地域団体がある。こうした組織を取りまとめ、平成25年度に運営委員会が発足した。行政に頼るのではなく、私たち地域住民一人ひとりの声を聞きながら、私は初代事務局長として邁進しているところである。</p> <p>委員会では、市民センターや児童館との施設との情報共有化、救護班、総務班、情報班等の各班の具体的な活動内容の充実化を計り、スムーズな運営を心がけている。そしてまた、地域の顔がよく見えることや気軽に声掛けできる雰囲気づくりを目指し、女性ならではの視点を活かして活動するために女性コーディネーターを設置した。女性コーディネーターは、避難者の悩みや声を聞き出して、対応やアドバイスを行う。女性ならではの細やかな配慮で対応していくことが期待されている。</p> <p>(4) 最後に</p> <p>今年は新型コロナウイルス感染症の広がりが、日本だけでなく全世界を脅かしており、収束の兆しが見えない中で、皆さんも不安な日々を送っていることと思う。10年前に発生した東日本大震災についても、誰もが経験したことのない1,000年に一度と言われる大災害だと言われている。その際に被災者の方々は、それぞれの役目を、みんなが自分なりに一生懸命に果たした。子供だからとか、男性だからとか、女性だからとかではなくて、私の役目、貴方の役目、みんな違ってそれでいいと思う。いつ起こるかわからない自然災害に立ち向かうことは難しいけれど、「防災」や「減災」について考え、実践していくことは必要であるし、一時、一瞬を大事にしていかなければならないと思う。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>
開催地より	<p>自主防災組織での語り部の活動について、わかりやすくお話しいただいた。自主防災組織主体による避難所運営の取り組みを強化していくとともに、女性をリーダーとしたモデル自主防災組織の立ち上げを検討していきたい。</p>